

第 59 回プリマーテス研究会 59th Annual Meeting of Primate Studies

2015 年 1 月 31 日 (土) Jan 31, 2015 (Sat)

10:00 ~ 12:00 口頭発表① Oral Session 1

- O-1 ニシローランドゴリラにおける群れとヒトリオスの出会い
○坪川桂子 (京都大学大学院理学研究科、日本学術振興会)
- O-2 ワンバの野生ボノボにおける食物分配
○山本真也 (神戸大学大学院国際文化学研究科)
- O-3 コモンマーモセットにおけるメスの性周期がオスの親和行動へ与える影響
○堀田英莉、中村克樹 (京都大学霊長類研究所)
- O-4 ヒトとニホンザルの甘味感受性の違い
○西栄美子、筒井圭、今井啓雄 (京都大学霊長類研究所)
- O-5 霊長類の脳進化をたどる：磁気共鳴画像 (MRI) 法によるこれまでの歩みと今後の展望
○酒井朋子 (慶應義塾大学医学部)
- O-6 染色体による霊長類の分類
○平井啓久 (京都大学霊長類研究所)
- O-7 野生チンパンジーにおける苦味受容体の遺伝的多様性と進化
○早川卓志^{1,2}、井上英治³、松尾ほだか¹、Kathelijne Koops⁴、村山美穂⁵、橋本千絵¹、松沢哲郎¹、
今井啓雄¹ (¹ 京都大学霊長類研究所、² 日本学術振興会、³ 京都大学大学院理学研究科、
⁴ ケンブリッジ大学、⁵ 京都大学野生動物研究センター)
- O-8 遺伝子分析を利用したワオキツネザルの父系判定の研究
○廣川百恵¹、中尾汐莉¹、田中ちぐさ¹、加藤真理子¹、川本芳²、市野進一郎³ (¹ 公益財団
法人日本モンキーセンター、² 京都大学霊長類研究所、³ 京都大学アフリカ地域研究資料セン
ター)

12:00 ~ 13:00 休憩 Break

13:00 ~ 14:15 口頭発表② Oral Session 2

- O-9 日本モンキーセンターにおけるエンリッチメントの取り組み
○山田将也、鏡味芳宏、荒木謙太 (公益財団法人日本モンキーセンター)
- O-10 飼育下ヤクニホンザルにおける形態の時間的变化
○新宅勇太 (公益財団法人日本モンキーセンター、京都大学野生動物研究センター)
- O-11 飼育下チンパンジーにおける子どもとその集団の社会的発達について
○川上文人^{1,2}、Chloe Gonseth^{1,2}、市野悦子¹、平栗明実¹、林美里¹ (¹ 京都大学霊長類研究所、
² 日本学術振興会)

O-12 動物園飼育の霊長類における系列学習
○田中正之^{1,2}、松永雅之¹、島田かなえ¹、伊藤二三夫¹、佐々木智子¹ (¹京都市動物園、²京都大学野生動物研究センター)

O-13 日本モンキーセンターにおける霊長類コレクションの自己評価と今後の持続可能性
○綿貫宏史朗 (公益財団法人日本モンキーセンター、京都大学霊長類研究所)

14:15 ~ 14:45 休憩 Coffee Break

14:45 ~ 16:45 口頭発表③ Oral Session 3

O-14 Enrichment and welfare of non-human primates at the Singapore Zoo
○John Sha Chih Mun (Japan Society for the Promotion of Science, Primate Research Institute, Kyoto University)

O-15 Can eye preferences in response to emotional stimuli be used as a welfare measure in captive capuchin monkeys?
○Duncan Wilson¹, Sarah-Jane Vick² (¹University of Edinburgh, ²University of Stirling)

O-16 The peaceful death of an old adult female chimpanzee in a captive group
○James R. Anderson (Kyoto University Graduate School of Letters)

O-17 An experimental study on interactional synchrony in chimpanzees (*Pan troglodytes*)
○Lira Yu^{1,2}, Masaki Tomonaga¹ (¹Primate Research Institute, Kyoto University, ²Japan Society for the Promotion of Science)

O-18 Gaze Following in Two Species of Colobine Monkeys
○Jie Gao¹, Jingzhi Tan², Tao Chen³, Ruoting Tao, Yanjie Su³ (¹College of Life Sciences, Peking University, ²Department of Evolutionary Anthropology, Duke University, ³Department of Psychology, Peking University)

O-19 Age-Related Changes in the cranial thickness of Japanese Macaques (*Macaca fuscata*)
○Nguyen Van Minh, Eishi Hirasaki, Yuzuru Hamada (Primate Research Institute, Kyoto University)

O-20 Hormonal profile of free-ranging Japanese macaques: effects of environment, social behavior and reproductive state
○Rafaela S. C. Takeshita, Michael A. Huffman, Fred B. Bercovitch (Primate Research Institute, Kyoto University)

O-21 Experimental removal of gastrointestinal nematodes reveals hidden constraints of infection on body mass and fecundity in Japanese macaques
○Andrew MacIntosh (Primate Research Institute, Kyoto University)

17:00 ~ 19:00 ポスターセッション Poster Session

2015 年 2 月 1 日 (日) Feb 1, 2015 (Sun)

10:00 ~ 11:00 口頭発表④ Oral Session 4

- O-22 動物園は霊長類のイメージを変えられるか
○赤見理恵、高野智（公益財団法人日本モンキーセンター）
- O-23 テレビ電話機能を使った理科の授業実践 ― 5 年生「人の誕生」で、単元末に未知の課題を提案することを通して―
○古市博之（愛知教育大学附属名古屋小学校）
- O-24 日本モンキーセンターにおける博物館学校連携 ～ 10 年間の歩みと今後の展望～
○高野智（公益財団法人日本モンキーセンター）
- O-25 タンザニアへの生息地研修とその後について
○奥村文彦、星野智紀（公益財団法人日本モンキーセンター）

11:00 ~ 11:30 休憩 Coffee Break

11:30 ~ 12:45 口頭発表⑤ Oral Session 5

- O-26 ボノボの協力行動に関する実験的研究
○川口ゆり¹、平田聡²（¹ 京都大学文学部、² 京都大学野生動物研究センター）
- O-27 霊長類における「追跡」の知覚
○渥美剛史（京都大学霊長類研究所）
- O-28 チンパンジーにおける音のリズムに対する自発的な同調
○服部裕子（京都大学霊長類研究所）
- O-29 大型類人猿ボノボによる生息地利用：長期行動観察データに基づく保全への提言
○寺田佐恵子、坂巻哲也、湯本貴和、古市剛史（京都大学霊長類研究所）
- O-30 マレー半島のオランウータン野生復帰プログラム
○林美里¹、Rosimah Roslan²、Sabapathy Dharmalingam²（¹ 京都大学霊長類研究所、² Bukit Merah Orang Utan Island Foundation）

ポスター発表 Poster Presentations

- P-1 Less prevalence and severity of lumbar osteoarthritis found in free-ranging Japanese macaques which is different from captive macaques but similar to humans
○ Porrawee Pomchote¹, Yuzuru Hamada¹, Tadashi Sankai² (¹Primate Research Institute, Kyoto University, ²Tsukuba Primate Research Center, National Institute of Biomedical Innovation)
- P-2 サルはしっぽを振らないの？ How do rhesus macaque and northern pig-tailed macaque move their tail?
○若森参、濱田穰（京都大学霊長類研究所）
- P-3 スマトラオランウータン、フランジ雄死亡によるアンフランジ雄の2次的な性的発達について
○木村幸一¹、高倉健一郎¹、黒鳥英俊^{2,3}、木下こづえ^{3,4}、小倉匡俊⁵、尾崎康彦⁶、久世濃子^{4,7}
(¹名古屋市東山動物園、²東京都恩賜上野動物園、³京都大学野生動物研究センター、⁴日本学術振興会、⁵北里大学獣医学部、⁶名古屋市立大学産婦人科、⁷国立科学博物館)
- P-4 ワオキツネザルオスの前腕臭腺から分泌される物質の季節変化
○伊藤聡美¹、白須未香²、宗近功³、東原和成²、今井啓雄¹ (¹京都大学霊長類研究所、²東京大学大学院農学生命科学研究科／ERATO 東原化学感覚シグナルプロジェクト、³財団法人進化生物学研究所)
- P-5 新世界ザルの苦味受容体応答の種間差
○筒井圭¹、尾頭雅大²、櫻井児太摩²、鈴木-橋戸南美¹、早川卓志¹、Barbara J. Welker³、Filippo Aureli^{4,5}、Colleen M. Schaffner⁵、Linda M. Fedigan⁶、河村正二²、今井啓雄¹
(¹京都大学霊長類研究所、²東京大学大学院新領域創成科学研究科、³State University New York Geneseo、⁴Liverpool John Moores University、⁵Universidad Veracruzana、⁶University of Calgary)
- P-6 チンパンジーのネジキ中毒症例について
○岡部直樹¹、上垣隆一²、山中典子²、鵜殿俊文³ (¹公益財団法人日本モンキーセンター、²独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所、³京都大学野生動物研究センター)
- P-7 ボツソウにおけるサバンナ植生調査
○森村成樹¹、大橋岳²、松沢哲郎^{3,4} (¹京都大学野生動物研究センター、²中部大学人文学部、³京都大学霊長類研究所、⁴日本モンキーセンター)
- P-8 リベリア共和国パラにおける野生チンパンジーの道具使用行動
○大橋岳（中部大学人文学部）
- P-9 The role of mother-offspring contact in wild Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*)
○Morgane Allanic (Primate Research Institute, Kyoto University)
- P-10 Mother-infant behavior in wild orangutans (*Pongo pygmaeus morio*), Danum Valley, Borneo
○Renata Mendonça, Tomoko Kanamori, Misato Hayashi, Tetsuro Matsuzawa (Primate Research Institute, Kyoto University)
- P-11 Spatial features of chimpanzees communicative behaviors
○C. Gonseth, F. Kawakami, E. Ichino, M. Tomonaga (Primate Research Institute, Kyoto University)

- P-12 Experimental investigation into cultural transmission: can captive monkeys learn a communicative, novel action from conspecifics in a social (begging) context?
○ Claire Watson, Tetsuro Matsuzawa (Primate Research Institute, Kyoto University)
- P-13 No gratitude, but punishment?: orangutan's sensitivity to familiar selfish humans
○ Yena Kim¹, Jae Chun Choe^{2,3}, Jeong Rae Rho⁴, Masaki Tomonaga¹ (¹Primate Research Institute, Kyoto University, ²Division of Ecoscience, Ewha Womans University, ³National Institute of Ecology, Republic of Korea, ⁴Animal Welfare Division, Seoul Zoo)
- P-14 認知バイアスの進化的・認知的基盤に関する検討
○村井千寿子¹・宮崎美智子²・友永雅己³・岡田浩之¹・今井むつみ⁴ (¹玉川大学、²大妻女子大学、³京都大学霊長類研究所、⁴慶応義塾大学)
- P-15 チンパンジーは自分の資産を増やそうとするのか
○黒澤圭貴、友永雅己 (京都大学霊長類研究所)
- P-16 協和音・不協和音はチンパンジーの同調タッピングに影響を与えるか?
○瀧山拓哉¹、服部裕子²、松沢哲郎² (¹京都大学理学部、²京都大学霊長類研究所)
- P-17 チンパンジーにおける桁上がりをふくむ数系列の学習：1 から 19
○村松明穂^{1,2}、松沢哲郎¹ (¹京都大学霊長類研究所、²日本学術振興会)
- P-18 シロテテナガザル (*Hylobates lar*) とホオジロテナガザル (*Nomascus leucogenys*) のハイブリッド♀ 1 個体の音声の特徴
○打越万喜子¹、瀧本薫²、堂前弘志²、松村初男²、美馬秀夫² (¹京都大学霊長類研究所、²いしかわ動物園)
- P-19 第 1 回国際テナガザル会議の内容紹介と第 2 回会議のご案内
○打越万喜子 (京都大学霊長類研究所)
- P-20 飼育下チンパンジーにおける母親の「拍手」行動の出現について
○平栗明実、川上文人、Claire Watson、Chloe Gonseth、市野悦子、有賀菜津美、林美里、友永雅己 (京都大学霊長類研究所)
- P-21 飼育チンパンジーにおける夜間の就眠場所による社会関係の検討
○市野悦子、林美里 (京都大学霊長類研究所)
- P-22 日本モンキーセンターにおける飼育動物の診療と死亡原因について ～動物病院 10 年のふりかえりと今後の展望～
○木村直人 (公益財団法人日本モンキーセンター)
- P-23 左上肢を切断した飼育下チンパンジーにおける群れ再導入後の行動の変化
○櫻庭陽子^{1,2}、近藤裕治³、山本光陽³、今西鉄也³、橋川央³、足立幾磨¹、林美里¹ (¹京都大学霊長類研究所、²日本学術振興会、³名古屋市東山動植物園)
- P-24 日本モンキーセンターにおけるワオキツネザルの繁殖計画 ～繁殖制限と搬出～
○田中ちぐさ、中尾汐莉、廣川百恵、杉浦直樹 (公益財団法人日本モンキーセンター)
- P-25 飼育下チンパンジーにおける食事内容の改善
○藤森唯、林美里 (京都大学霊長類研究所)

- P-26 熊本サンクチュアリ研修から当園の飼育へ
○坂口真悟、堀込亮意、星野智紀、寺尾由美子、奥村文彦、鏡味芳宏、廣川百恵、根本慧、田中ちぐさ、中尾汐莉（公益財団法人日本モンキーセンター）
- P-27 日本モンキーセンター南米館における現在の飼育状況と今後の展望
○寺尾由美子、根本慧、廣川類（公益財団法人日本モンキーセンター）
- P-28 動物福祉に配慮したふれあい展示による学習効果の向上の試み
○三宅菜穂美、長谷川裕士、中村翔、石田崇斗、村山祐哉（公益財団法人日本モンキーセンター）
- P-29 桃太郎園と谷津遊園のチンパンジー
○落合知美¹、綿貫宏史朗^{1,2}、鶴殿俊史³（¹ 京都大学霊長類研究所、² 日本モンキーセンター、³ 京都大学野生動物研究センター）
- P-30 幸島への生息地研修について
○中尾汐莉、寺尾由美子、根本慧、坂口真悟、堀込亮意（公益財団法人日本モンキーセンター）
- P-31 屋久島生息地研修 ～1 カ月 35 日雨がふる島へ～
○廣川類¹、辻内祐美¹、新宅勇太^{1,2}（¹ 公益財団法人日本モンキーセンター、² 京都大学野生動物研究センター）
- P-32 国際学術雑誌 PRIMATES：出版状況と取り組み
○古賀典子（公益財団法人日本モンキーセンター）
- P-33 公益財団法人日本モンキーセンターにおける研修・発表に関する初年度の出張派遣状況について
○今井由香、安倍由里香、根本真菜美、大岡幸男（公益財団法人日本モンキーセンター）
- P-34 日本モンキーセンターミュージアムショップの取り組み
江藤彩子、○加藤章（公益財団法人日本モンキーセンター）